



読書は知識と想(創)像力の泉であり、 新たな世界の扉を開くきっかけに

4月23日は「子ども読書の日」と定められており、その前後の期間に読書の推進に関わる取り組みが様々に実施されているところです。

本校におきましても、新学期でもあり、図書室の使い方としてのオリエンテーションに始まり、図書委員会の活動も動きだし、下・上学年に分かれてお気に入りの本を紹介する等の取り組みを行いました。また、朝の読書タイムや教員による読み聞かせもスタートしました。「あきらめない」の一つでもある「図書室の本を30冊以上借りて読もう」という努力目標もたてました。

では、どうして読書を勧めるかということですが、それは、本に静かに語りかけると本は読み手に誠実に応えてくれるからです。読書は心から信頼できる親友のような存在なのかもしれません。

読書の効用については様々なところで語られているところですが、まず第一は「読書は楽しい・面白い・もっと読んでみたいな」という読書の楽しみだとわたしは思っています。本を読んでいる時間が楽しい、楽しい時間を過ごすことができるという効用があるのではないのでしょうか。

次に、自分の中で言葉の数が増えるということです。本の中に出てくる様々な言葉の中には、わからない言葉や難しい言葉が出てくるものです。でも、読んでいくうちに前後の関係から言葉の意味を想像できるようになったり、何度も目にする中で自分でもその言葉を使えるようになったりします。使える言葉が増えるということは、考えたり、思ったりしたことを表現する幅が広がることにつながります。

さらに、読書によって考える力がつきます。読書により、新しい知識を得たり、それを自分の生活に結びつけたり、自分の考えを整理したりすることで、考える力がどんどん身につけていきます。

その他にも、まだ見ぬ人々や出来事、様々な考え方も触れることができます。本の中で、素晴らしい人物の生き方に出会ったり、遠い世界を近くに引き寄せ

たり、一つの言葉が光り輝き出したりと、自分が新しい世界の扉を開けたことを知ることが出来ます。本の世界は、本の扉を開かない限り語りかけてはくれません。自分で、自分から、本の扉を開いてほしいと思います。きっと、今までと違う新しい自分を発見できると思います。

子ども読書の日(4月27日)

下学年の部 3年生からの紹介



上学年の部 6年生からの紹介



1年生の学習の様子から



担任の先生の話をしっかり聞いて、活動に向かうことができています。友だちと協力したり、話したりしながら進めることも出来ます。国語や算数の時間には少人数指導の先生にも入っていただいている学習です。



学校の中には、自分で管理しなければならないものだけでなく、みんなで使う物や場所があります。幼稚園にはなかった図書室について、使い方や本の借り方の勉強をしました。図書館司書の北川さん、神山さんのお話をしっかりと聞くことが出来ました。

学校のルールについて「知る・わかる・出来る」で、学校生活に自信を持ちます。



「給食の時間、身体測定の時間、休み時間・・・」体をたくましくしていくためにも大切な時間となります。時間の使い方や時間で次の行動に移ること、人との関わりやみんなと楽しく活動できることなど、一つ一つが学びの場となっていきます。

子どもの姿を通して幼稚園から小学校へのつながりを大事にした取り組み「アプローチプログラムからスタートカリキュラム」を意識した取り組みが昨年度より始まりました。1年生では、「人と関わる力」「生活する力」「学ぶ力・学力」の三つについて就学前の好奇心や探究心、経験の姿をつかみ、身につけた力を生かした指導、つなぐ指導を行っていきます。